



東邦大学 佐倉だより



vol. **51**
2021.4.1

基本理念

- 医療の目的 質の高い医療を安全に提供する病院
- 病診(病)連携 地域に貢献する病院
- 教職員のある方 人間愛を共有する病院
- 職場環境 楽しく明るくチャレンジする病院
- 生涯教育 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

東邦大学医療センター佐倉病院

発行：広報委員会・東邦佐倉会事務局

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1

TEL 043-462-8811 (代) FAX 043-462-8820 (代)

URL <https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



Topics News

1 Executive Message

新型コロナウイルス禍における
地域医療支援病院の役割
副院長
管理・医療連携・ダイバーシティ担当
吉田 友英

2 アピールしたい診療と研究：循環器内科カテーテルアブレーション治療再開のお知らせ 循環器内科 准教授 清水 一寛

3 昇任紹介：感染対策室 室長/臨床教授 長島 誠 呼吸器外科 准教授 佐野 厚

4 第16回・第17回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーを開催して：医療連携・患者支援センター 竹原 和宏

医療連携セミナー 次回開催予告

2021年度の祝日における診療体制と休診日のお知らせ

Executive Message

新型コロナウイルス禍における 地域医療支援病院の役割



副院長

管理・医療連携・ダイバーシティ担当

吉田 友英

Tomoe Yoshida

てくることを心から願っております。

当院は、2016年に地域医療支援病院の認定を受けました。地域医療支援病院は、地域に必要な医療を確保し、地域の医療機関の連携などを図ることによるかかりつけ医等を支援する医療機関です。また、紹介患者さんに対する医療の提供のみならず、医療機器の共同利用の実施、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修の実施という4つの役割・機能が求められています。新型コロナウイルス禍においても、当院は地域医療支援病院としての役割を果たさなくてはなりません。しかし、ともすれば新型コロナウイルス感染症の治療が優先されると、病床

桜の花が咲き乱れる4月は新年度が始まり、入園式、入学式、入社式などと多くの方が新しい一歩を踏み出す季節です。しかし昨年は新人たちを迎える様々な行事が新型コロナウイルス感染症のために中止となりました。今年度は少しずつでもいつもの日常が戻

削減だけでなく、予定の検査や手術の延期、救急車の応需困難などが起こります。このような地域医療の崩壊を回避するために日頃より推奨しております「症状が落ち着いた患者さんをかかりつけ医等に紹介する」ということを今後も継続してまいりますのでよろしく願い致します。

また、昨年度は医療連携セミナーを5回開催しましたが、多くの先生はWEB参加をしていただきました。“顔が見える医療連携”を目指しています当院にとっては物足りなさを感じていますが、今後も日常診療に役立つ有益なテーマを提供していきたいと思っております。

地域にとって新型コロナウイルス感染症患者さんの治療も重要であり、その上で日常診療を維持するために限りある病床、医師、医療スタッフをどのように有効に用いるのか、今後も続けて知恵を絞っていかなくてはならないと考えています。

直近の課題であります地域住民への新型コロナウイルスワクチン接種も含めて、地域の先生方、そして行政との協力はwith coronaの社会においてより一層重要になると思っております。皆様と一丸となって地域医療崩壊を阻止するために尽力してまいりますので、今後ともご協力をよろしくお願い致します。

アピールしたい

診療と研究

循環器内科カテーテルアブレーション治療再開のお知らせ

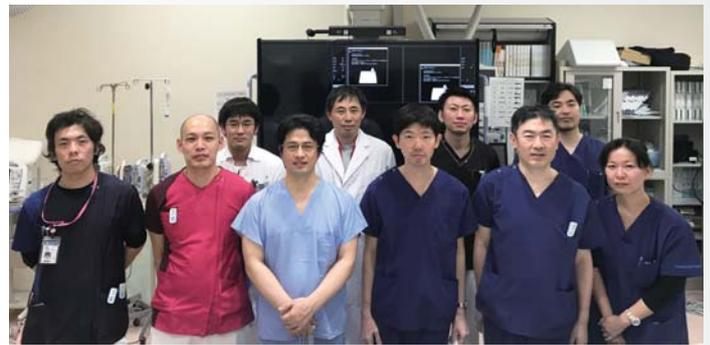
循環器内科 准教授 清水一寛 しみず かずひろ

皆さんこんにちは。日頃は、循環器疾患の患者さんの紹介、逆紹介で大変お世話になっております。コロナウイルスで大混乱の中、すべての医療従事者は地域住民の健康と職員と家族の健康に配慮し、日常診療とコロナ対策の両立に奮闘されていることと思います。

野呂真人先生退職後、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療は休止となっておりますが、1月より東邦大学医療センター大森病院から不整脈専門医の木下利雄先生をお迎えし、済生会横浜東部病院に不整脈診療の勉強に出向していた杉崎雄太先生も戻り、新メンバーで不整脈診療をリスタートできることとなりました。記念すべき第1例目ですが、発作性心房細動に対してのカテーテルアブレーションを2月4日に施行し、2月6日に無事退院されました。

木下先生は、東邦大学医療センター大森病院と三井記念病院で研鑽を積み、ちょうど『心・技・体』が充実期に入ってきた先生です。写真（中央水色の術着の先生）をみてもわかるように、ジェントルマンです。杉崎先生（中央紺色の術着の若い先生）は、2年9ヶ月の出向で、見違えるように経験値を上げて戻りました。今、まさに伸び盛りです。ちなみにその隣の紺色の術着の医師が私です。

この機会に、東邦大学の学祖、額田晋先生のお言葉『自然・生命・人間』をご紹介します。『しずかに自分の心を大自然の偉大な力に通わせながら、人間として生きられるだけ生き、そして、社会のため、人類のためはたらけるだけ働いてみようではないか』書は、当院⑧薬局の左端の壁に掲示されておりますので、機会があればご覧いただければと存じます。現在国難ですが、疾患はコロナばかりではなく、また社会生活、学校生活は形を変えなが



木下

杉崎

清水

らも適応し進んでいきます。我々のできることは限られていますが、少なくとも佐倉地区の住民の方が、この地区に住んでいて良かったなと思えるような環境作りのため、地域の先生方と連携しながら、若い先生の勢いも借りて地域医療に貢献していきたいと思えます。

我々のグループは心臓リハビリテーションデータベースというものを作っており、それを解析すると心不全入院患者さんの約50%が心房細動で、高齢になるにつれその割合は増加していました。そして心房の機能は、心臓と血管の連関のなかで見過ごせない役割を果たすことも生理機能検査部における心臓超音波と血管機能(CAVI)の研究でわかってまいりました。心房細動の上流に位置する動脈硬化リスク(高血圧や肥満、睡眠時無呼吸症など)の管理も今後益々大事になるかと思えます。

人口の高齢化と共に増加する循環器病に対し、一例一例真摯に診療してまいりますので、地域の先生方におかれましては、今後も暖かい目で東邦大学医療センター佐倉病院循環器内科をご支援賜れば幸いです。ホームページ(<https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/sakura/cardiology/> または QRコードからアクセス)もアップデートしましたので是非ご覧下さい。

下記QRコードを読み取って下さい



昇任紹介



感染対策室 室長／臨床教授

長島 誠 ながしま まこと

2021年4月1日付で感染対策室臨床教授として勤務することとなりました。2012年に感染対策室が設置され、室長に就任いたしました。大学病院の入院患者は重症の方が多く感染への免疫力が低下しています。医療機関は感染症が発生しやすい環境でもあり注意が必要です。

2019年12月に中国湖北省武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中でまだまだ感染拡大に歯止めがかからない状況です。日本においては、2021年1月7日に新型コロナウイルス対策で2回目となる「緊急事態宣言」が11都府県を対象に発出されました。

そのような中、当院も2020年4月以降、COVID-19患者の入院、発熱・肺炎患者の救急搬送に対応してきました。全身麻酔患者は術前に全例でSARS-CoV-2遺伝

子検査を実施し、院内感染を制御し安全に手術治療を行っています。濃厚接触者等に対するスクリーニングはドライブスルー方式を導入しました。地域でクラスターが発生した老人介護施設、障害者支援施設への現場介入、入所者の健康観察も担当しています。

COVID-19の収束に向けて、院内感染対策はますます強く認識されるようになりました。地域の中核病院として高度な質の高い医療を提供し、通常の医療とCOVID-19診療の両立に向けて、患者と医療従事者の安全を守り、感染症の予防、診断、治療に対して総合的なサポートを提供していきます。

また引き続き、外科診療、化学療法、緩和ケア、がん相談等の分野も担当します。患者さんのQOLを最大限に考慮しながら、質の高いがん診療を心がけていきます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



呼吸器外科 准教授

佐野 厚 さの あつし

2020年12月に准教授に昇任いたしました。

2019年4月に東邦大学医療センター佐倉病院に赴任して以降、肺癌には標準手術だけでなく胸壁合併切除・横隔膜合併切除といった拡大手術まで、対象疾患についても肺癌・縦隔腫瘍・気胸だけでなく肺非結核性抗酸菌症・膿胸といった呼吸器感染症手術まで、手術の範囲を広げていきました。2020年はCOVID-19の流行がありましたが、対応可能な手術の範囲を広げることによって2019年より手術数を増やしております。COVID-19流行は病院経営にも大きな影響を与えており、外科手術においても新規投資をして新しい手術を行う時期ではありません。現存の機器を最大限活用して、より安全・確実な手術

を行っていくよう、努力して参ります。

救急診療科・感染症科のない当院では、COVID-19対応を呼吸器内科が総力を挙げて行っています。呼吸器外科の大事なパートナーである呼吸器内科に対して、呼吸器外科医として手助けできることはごくわずかではありますが、気管切開・胸腔ドレナージなどできることからCOVID-19診療にも貢献できたらと思いついて診察しております。

COVID-19診療は医学生・研修医の教育・修練にも大きく影響しています。集合して行う教育から遠隔教育へと急激に変化しています。准教授として教育は大きな仕事の1つであります。時代にあった教育の方法についても努力して対応しつつあるところです。

今後とも東邦大学医療センター佐倉病院をよろしくお願いいたします。

第16回・第17回

東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーを開催して



医療連携・患者支援センター 竹原 和宏



腎臓内科 准教授
大橋 靖



泌尿器科 教授
鈴木啓悦

2021年1月29日(木)に第16回 医療連携セミナーを開催し、院外から38名のご参加をいただきました。緊急事態宣言が発令された中での開催でしたので、全面Web配信による開催としました。SESSION1では「症例から学ぶ治療方針～高力

リウム血症～」と題し、内科医師 石井信伍が講演しました。SESSION2 特別講演では「慢性腎臓病 (CKD) の重症化予防～診療プランの選定と実践～」と題し、腎臓内科准教授 大橋靖より講演を行いました。続く第17回 医療連携セミナーは2021年3月11日(木)に開催し、院外から24名のご参加をいただきました。第17回は会場とWebどちらでもご参加可能なハイブリッド形式で開催しました。一般演題では症例①「ロボット支援手術に関して(前立腺癌)」と題して泌尿器科助教 宋本尚俊が、続いて症例②「内視鏡手術に関して(尿路結石・前立腺肥大症)」と題して泌尿器科助教 加藤精二が講演しました。特別講演では「前立腺癌診療アップデート」と題し、泌尿器科教授 鈴木啓悦より講演を行いました。両セミナーとも職種を超えた多くの方々からご質問をいただき、有意義な会となりましたことに感謝申し上げます。

皆様との連携のさらなる発展のために、2021年度も医療連携セミナーを企画していきます。より多くの方々にご参加いただき、地域との「顔の見える医療連携」、「対話する医療連携」を目指していきます。

今後ともご参加のほどよろしくお願い致します。

医療連携セミナー開催のお知らせ

第18回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー

- 開催日時：2021年6月17日(木) 19:00~20:15
- 開催場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂
- SESSION1：「大腸がん治療の取り組み ~化学療法と腹腔鏡手術~」
東邦大学医療センター佐倉病院 消化器外科 助教 北原知晃
- SESSION2：「減量・代謝改善手術のABC ~肥満、糖尿病は手術で良くなります~」
東邦大学医療センター佐倉病院 消化器外科 准教授 大城崇司

※お申し込み等の詳細は、同封のご案内をご覧ください。

第19回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー

- 開催日時：2021年9月9日(木) 19:00~20:15
- 開催場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂
- 講演内容：循環器内科をテーマに企画しております。

※お申し込み等の詳細は、後日ご郵送にてお知らせ致します。

2021年度(上半期) 診療体制変更(祝日・土曜)について

以下の祝日は平日診療体制、土曜日は休診とさせていただきます。

祝 日
2021年 5月 5日(水)
2021年 7月22日(木)
2021年 8月 9日(月)
2021年 9月20日(月)

平日診療体制

※平日同様に外来・手術等をしております。

土 曜
2021年 5月29日(土)
2021年 7月 3日(土)
2021年 8月 7日(土)
2021年 9月 4日(土)

休 診

※救急のご依頼はお問い合わせください。